

# 1月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

30年1月のD I 値は8指標中、3指標が小幅ながら上昇。「売上高」「取引条件」は下落となった。特に「売上高」は2桁の大幅な下落。残り3指標は横這いであった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

板金工事業においては受注量が総じて順調、味噌製造業では生産量、出荷量が大幅に増加、家電製品小売業においても季節商品の動きが活発であるとの明るい声が寄せられた。

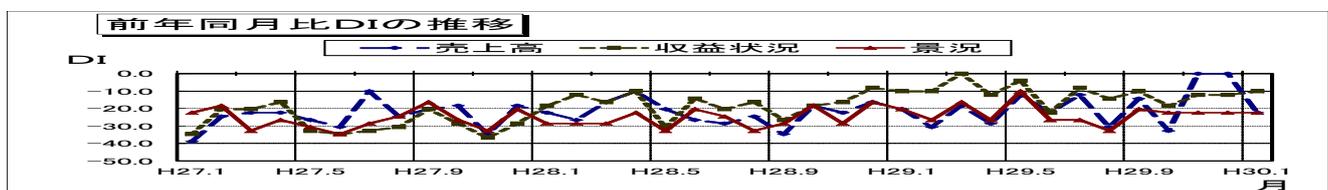
その一方で、1月は寒波や積雪の影響で売上の伸び悩みに嘆く声が寄せられた。また、依然として続く労働力不足をはじめ、原材料高や軽油価格の上昇も懸念材料となっている。

景気は回復を続けていると言われているものの、日経平均株価は年初来の好調から一転して約2年ぶりの下落率（8%安）を記録する等、依然として不安定な値動きが続いている。更に緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	H29 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30 1月	前月比 増減
景況	-20.4	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	-26.5	-26.5	-32.7	-20.4	-22.4	-22.4	-22.4	-22.4	0.0
売上高	-20.4	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	-22.4	-12.2	-30.6	-14.3	-32.7	0.0	0.0	-22.4	-22.4
収益状況	-10.2	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	-22.4	-8.2	-14.3	-10.2	-18.4	-12.2	-12.2	-10.2	2.0
販売価格	6.1	6.1	-4.1	12.2	8.2	-2.0	-6.1	4.1	0.0	10.2	16.3	12.2	20.4	8.2
取引条件	2.0	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	-6.1	-4.1	0.0	-4.1	-6.1	-2.0
資金繰り	-6.1	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-10.2	-8.2	-4.1	-2.0	2.1
設備操業度	-27.8	-5.6	0.0	-5.3	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-2.0	-2.0	0.0
雇用人員	-14.3	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-4.1	-12.2	-12.2	-18.4	-12.2	-14.3	-14.3	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## 【景況関連の報告】

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・味噌の生産量、出荷量は対前月比150%と大幅に増加した。これは季節的な要因であり、前年同月比では横這いで推移している。主要原材料である、国産加工米やMA米の価格は上昇傾向が続いており、収益面に影響が出ている。今後の市場の動向に注目したい。

※MA米・・・ミニマムアクセス米。価格等の面で国産米では十分に対応しがたい用途（主に加工用や飼料用など）を中心に販売されている。日本は米の輸入に数百%の関税をかけて国産米生産を保護する代わりに、最低限の輸入機会（低い関税での輸入枠設定）を提供することになっている。その枠として輸入しているのがMA米。

#### <繊維・同製品>

2. 縫製・売上高不変。収益状況不変。各社とも人材不足で困っている。人手不足を研修生でカバーしているのが現状である。しかし、技能実習生も以前と違い仕事に対する意欲が感じられなくなっている。又、技能実習事業そのものに対し、技能実習機構の影響が大きく、各組合ともに非常に敏感になってきている。技能実習生の待遇を良くしているが、その結果人件費の高騰になっている。発注先は人件費が高くなっている事に対して、全く認識が無く、低価格で発注を出している状況。中央会・行政庁への要望事項として、「働き方改革」をする事によって、日本の工業生産産業はこの先殆ど駄目になると思う。もっと現状把握するべきである。

#### <木材・木製品>

3. 製材・売上高不変。収益状況不変。山間部の積雪の影響で、原木調達に苦心している。また、原料費の上昇により収益が圧迫されている。
4. 製材・売上高不変。収益状況不変。天候不順による出材不足と、輸入原木高による仕入困難な状況が続いている。
5. 木材・依然として、原木丸太出材量は非常に少ない状況が続いている。引き合いは旺盛で、価格も上昇しているが売上は伸びてこない。各製材所では丸太不足と原木高により、経営が圧迫され厳しい状況が続いている。
6. 木材・売上高減少。収益状況悪化。現在、山から搬出される原木の量が少なく、需要と供給が一致していない。このままいくと、木材の値段が急上昇の可能性が大きい。

## <印刷>

7. 印刷・1月は12月に引き続き休みが多く、稼働日数の少ない月になる。対前年比での受注量減少や定期刊行物減少が目立ってきている。新聞上では景気拡大の戦後最長記録更新等が報道されている。県内では、一部金属製造業等で景気は上向いてきている話は聞くものの、印刷関係業界では全く実感できない現状。徳島では好材料が見当たらないと嘆くばかりでなく、オリンピックまでの好景気の中、景気の上向いている業界の需要に応えたり、インバウンド需要を取り込み少しでも景気拡大の波に乗れる努力をしていかなければならない。
8. 印刷・昨年暮れから徳島県内における受注が減少傾向にあり、1月の業況は良くないという声が多く聞かれた。ここ数年で就業者数は少し減少したようだが、まだ供給過多の状況は変わらない。需要がこのまま回復しないと、今後は販売価格に影響してくるかもしれない。印刷用紙の値上がり分、運賃の上昇分を販売価格に転嫁する交渉もまだまだ進んでいない。また、中央会・行政庁への要望事項として、中小企業庁が7月官公庁向けに、官公需法に基づく「平成29年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」を発表した。その中で、「中小印刷会社の知的財産権の保護に十分留意した契約内容とするように努める」という事が明記された。これは印刷物納品時の知的財産権放棄項目を削除するように求めている。今後地方自治体においても、その基本方針を守るようにして頂きたい。

## <窯業・土石製品>

9. 生コン・出荷量は、正月休みや寒波に見舞われたことも影響し昨年同月比減少。
10. 生コン・1月の出荷数量は、対前年同月比9%の減少となった。要因としては、前年同時期と比較して新設工事が少なかった事が影響している。今後の需要見通しについては、四国地方整備局での直轄事業（四国横断自動車道の阿南～徳島東間の整備）他に河川改修工事など新規需要を見込んでいるが、出荷数量は前年をやや下回ると予想される。

## <鉄鋼・金属>

11. 鉄鋼・業況に大きな変化はなく、売上高、設備操業度とも総じて横這い状況にある。また、人材の確保にも相変わらず苦慮している。新たな年を迎え、一部引き合いの増加も見受けられるところであり、景気動向の好転が期待される。
12. ステンレス・売上高不変。収益状況不変。現在のところ直接的な影響はないものの、海外の不安定な情勢が懸念される。国内では、中小企業は様子見の状況が続いているが、大手企業は継続的に設備投資が行われており、国内外ともに目立った大きな変化はない。

## <一般機器>

13. 機械金属・全体として、売上高や収益状況など良好な水準を維持しており、大きな変化は見られない。一部では、顧客の設備投資増加等に伴う業況の好転が見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また引き続き、従業員の確保難、原材料価格の上昇等が直面する経営上の課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

14. 食糧卸・売上高不変。収益状況不変。原価の上昇が続いており、収益状況の好転に結びつかない。

### <小売業>

15. 機械器具・売上高増加。収益状況好転。季節商材の意味合いの強い自転車であるため、これからの天候次第で活況になる。
16. ショッピングセンター・売上高は全店計95.4%（既存店97.1%）と前年を割った。正月三が日は93.5%であったので、徐々に戻りつつあると思われる。1月中旬に介護施設がオープンした。最近「ショッピングリハビリ」という言葉が使われ始め、賑やかなショッピングセンターの中で催事等に参加したり、いろいろな商品や人々に触れ合うことにより、リフレッシュして頂く事を目的としている。全国的にも医療施設や保育施設をリーシングするショッピングセンターが増えてきているが、介護関係のリーシングは希である。介護施設のオープンをきっかけに、当ショッピングセンターが更に地域に貢献していきたいと考えている。
17. プロパンガス・売上高増加。収益状況悪化。例年より、凍結による給湯機器の破損、故障による修理、交換依頼が多い。
18. 電気機器・売上高減少。収益状況悪化。2018年は冬季オリンピック等国际スポーツイベントが多くある。また2018年12月1日以降には、4K、8KテレビのBS放送が開始される予定であり、家電映像関連機器の伸長が大いに期待されているものの、1月現在では本格的な買換え需要は起きていない。一方、暖房機器は買換え需要は順調。
19. 畳小売業・1月中旬の寒波の影響で、一般家庭の仕事が減少。消費マインドは冷え込むばかりである。また、年度末に向けて公共工事が多少出てきているものの、需要は少ない。

### <商店街>

20. 徳島市・例年になく低温状態が続く、商店街は客足が鈍く、セール・売り出しにも影響が出ている。リピーターによる売上確保は出来ているが、専門店街においてもイベント効果でどうにか売上を保っている状況である。
21. 徳島市・寒さの影響なのか、客足が鈍いと感じる。
22. 阿南市・売上高不変。収益状況不変。1店舗が閉店。だんだんと寂しい商店街になってきている。

## <サービス業>

23. 土木建築業・売上高不変。収益状況不変。1月も改築工事や維持修繕、橋、トンネル補修工事、交差点改良工事等補正予算の工事の発注及び工事、業務発注の資料作成を行う。改築工事では、発注工事が一段落したが、年度内完成工事の変更があり、件数が多いため昨年よりも多忙である。維持修繕、橋、トンネル補修工事は発注工事等もほぼ終了し、業務量は落ち着いてきている。交差点改良工事、電線共同溝、視距改良工事においては、工事量は昨年と変わらず件数は少ないが、来年度の事業計画を前倒して作業しているため、昨年よりも多忙である。
24. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-11.0%の1,469台、中古車は+1.9%の385台、合計では-8.6%の1,854台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比+6.4%の1,202台、中古車+10.7%の373台、合計は+7.4%の1,575台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-1.9%の3,429台と微減。点検整備などのサービスに関する収益状況においても、普通車は12%の減少となった。
25. 旅行業・1月は寒さが厳しかった為、客足も鈍かったようだ。

## <建設業>

26. 建設業・相変わらず公共工事の発注が遅れており、県下全域で受注量が減少している。12月末現在の徳島県公共工事発注は、対前年比8.4%減と厳しい状況である。社会資本整備の必要性から、徳島県へ予算増額を要望。その結果、徳島県からは今年度の補正予算を含めた14ヶ月予算で約100億円の増額を示している。
27. 解体工事業・売上高増加。収益状況好転。民間戸建住宅解体工事発注が減少傾向となっている。
28. 鉄骨・鉄筋工事業・売上高不変。収益状況不変。年が明け、設備操業度が若干低下した工場も見られた。
29. 板金工事業・仕事の受注は順調であるようだ。
30. 電気工事業・新設住宅口数は221件であり、対前年比81.2%と大幅に減少した。

## <運輸業>

31. 貨物運送業・一般貨物輸送は、例年1月は営業日数少なく低調であるが、今月は特に野菜が昨年末よりの天候不順や今月の異常低温等により、荷動きが少なく低調に推移。また、軽油価格は前月平均より約4円弱の上昇となり、利益確保が難しくなりつつある。
32. 貨物運送業・燃料価格が上昇し、コストがかさんでいる。また、売上高が減少したと答えた事業者が以前より増えた。しかし、「不変」「増加」と答えた事業者はほぼ同数。1月は閑散期の為、バラツキがあると思われる。